毎月23日は，子どもといっしょに読書の日

奄美図書館だより

平成25年7月1日発行
第２６５号　（７月号）
鹿児島県立奄美図書館

〒894−0016　奄美市名瀬古田町１−１　TEL0997−52−0244
HP address：http://www.library.pref.kagoshima.jp/amami/
E-mail address：ama-lib@pref.kagoshima.lg.jp

ふしぎ探究塾

6月8日（土），龍郷町立渡連キャンプ場において「ふしぎ探究塾」を開催しました。この講座は，「夏休みの自由研究の基礎的・基本的な知識にふれながら，奄美群島の貴重な自然環境の仕組みを学ぶとともに，自然の神秘に気付き，創作童話への意欲を喚起する」目的で，県立奄美図書館の主催事業の中でたった一つだけ「図書館を飛び出して行う事業」です。

まず，大型絵本やネリヤカナヤ創作童話の大型紙芝居の読み聞かせ，創作童話ポイントの紹介を行いました。そして，渡連キャンプ場の荒田さん，奄美海洋生物研究会の興さんから，ウミガメの生態などについての話を聞きながら，ウミガメが浜に上がってくるのを待ちました。

午後8時半頃，ウミガメが砂浜に上がってきたという情報が入りましたが，残念ながらその日は海の方へUターンして帰ってしまい，産卵は見られませんでした。

奄美の身近な自然や文化・伝統に興味をもち，多くの体験を通して，子どもたちの豊かな心で感じたことから，さらに創造を広げて，創作童話コンクールへの応募につながることを期待しています。

図書館ボランティア養成講座

6月2日（日）に，平成２５年度図書館ボランティア養成講座を実施しました。公共図書館におけるボランティアの役割，図書の修理やフィルムコートの方法などについての講義・演習を行いました。講座終了後には，「本の修理を行い，本をもっと大切にしたいと思いました。」「様々なところで，ボランティアとして活動したいと思います。」という感想をいただいたり，奄美図書館のボランティア名簿への登録もしていただいたりして，主催した側として大変うれしく思いました。

現在，奄美図書館では，図書の整理や修理，大型紙芝居等の制作，おはなし会での読み聞かせ等の様々なボランティア活動をしていただいています。興味のある方は，お問い合わせください。また，１０月１２日(日)には，読み聞かせボランティア養成講座を予定しています。多くの方のご参加をお待ちしています。

お母さんとお父さんのための読み聞かせ教室

５月２６日(日)に，「お母さんとお父さんの読み聞かせ教室」を実施しました。親子で絵本の読み聞かせや手遊び歌を楽しみながら，子どもの発達段階に応じた本の選び方，読み聞かせの方法，絵本を通した親子のコミュニケーションのとり方について学ぶ姿が見られました。

読み聞かせは，子どもたちが自分自身で読んだ時には味わえない，読み手の思いを感じたり，おはなしの世界を一緒に楽しみ，親子でふれあいながら，コミュニケーションを図ったりすることができます。また，絵本を通して子どもの成長を感じることもできます。本を通して，親子で楽しむ時間を過ごしてみませんか。

奄美先人の知恵
青久の石垣防波壁

青久集落は，住用の最も南の集落です。太平洋に面した浜がお椀の形になっているので，強い風が吹くと，とても大きな高潮が集落の中心の民家の庭先まで来て，毎年，農作物が被害を受け，集落の人々は大変困っていました。そこで，高潮対策として，農作物のすぐ前の浜にアダンを何度も植林しましたが，高潮に流されてしまいました。

1948 年（昭和 23 年）頃，奄美群島はアメリカ合衆国を中心とした連合国の統治下にあり，シマンチュは琉球政府と呼んでいました。当時の区長さんは，村長に青久の現状と防波壁の必要性を強く語りました。そして，実情を理解した村長は，直ちに琉球政府に申し出て，政府直轄の事業として，防波壁づくりに取りかかることになりました。

政府直轄の事業といっても，現在のようにブルドーザーなどの機械もなく，すべてが人の力で行われました。さらに，工事作業員も遠くからは通えないので，青久に住み込みながら作業にあたりました。工事にかかわった人は延べ8180 名で，専門的な作業員の他に，青久・市の人々も集落の安全のために，時間や労力を惜しむことなく作業を行い，女性や子どもも炊き出しなどの手伝いをしました。

防波壁は，1953 年（昭和 28 年）の奄美群島日本復帰をはさんで，日本政府の直轄事業として引き継がれ，昭和 30 年に完成しました。集落みんなの長年の思いや願いが力となって，全員で作り上げたシマの象徴が完成したのです。

その後，台風や地震などにより，この防波壁は大きく壊れていましたが，平成 24 年３月に，「奄美市紡ぐきょらの郷づくり事業」として，修復が行われています。

青久の防波壁づくりについては，『郷土の先人に学ぶ 第５集』に収められています。

お知らせ

参加してみませんか！

放送大学第２２回公開講座（奄美）

○日時　平成２５年７月１４日（日）13:20〜14:45
○場所　奄美図書館　４階　研修室
○内容　演題　「『ゲオーポニカ』とは何か」
　　　　講師　鹿児島大学教育学部教授　　伊藤　正氏

あまみならでは学舎　３

○日時　平成２５年７月２０日（土）14:00〜15:30
○場所　奄美図書館　４階　研修室
○内容　演題　「離島医療について〜ドクターヘリの運航〜」
　　　　講師　鹿児島県立大島病院長　　眞田　純一氏

島尾敏雄記念室企画展（開催中）

○日時　〜平成２５年９月２３日（月）
○場所　奄美図書館　島尾敏雄記念室（１階）
○内容　「分館長就任前後の心の軌跡」
　　　　−昭和 31 年７月〜35 年１月までの
　　　　　　　　島尾敏雄日記（コピー）から−

第１０回ネリヤカナヤ創作童話コンクール募集
第１０回記念大賞が決定！

○　応募規定等については，「第１０回ネリヤカナヤ創作童話コンクール実施要項」を必ずご覧ください。実施要項は，鹿児島県立奄美図書館ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞでもご覧になることができます。

○　第１回〜９回の全作品は，鹿児島県立奄美図書館でご覧いただけます。また，第１回〜第９回の最優秀賞受賞作品はホームページでもご覧いただけます。

※　お問い合わせは，奄美図書館まで。

7月の行事カレンダー

月	日	曜	行 事・催 し
7	1	月	休館
	3	水	おはなしの森　15：30〜
	6	土	おはなしさんぽ　10:30〜
	8	月	休館
	10	水	おはなしの森　15：30〜
	11	木	青嶺短歌会　13:00〜17:00
	12	金	育児サークル「こっちむいて」10:00〜11:00
	14	日	放送大学公開講座
	16	火	休館
	17	水	おはなしの森　15：30〜
	20	土	あまみならでは学舎③ 読書会「島にて」10:00〜12:00
	21	日	奄美郷土研究会　14:00〜16:30
	22	月	休館
	24	水	おはなしの森　15：30〜
	26	金	読書指導者等研修会（大和村中央公民館）
	29	月	休館
	31	水	おはなしの森　15：30〜
8	25	土	あまみならでは学舎④

8月の休館日予告

５日(月)・

12日(月)・19日(月)・26日(月)

読書の風を奄美から

今 月 の 新 着 図 書 コ ー ナ ー

児　童

ふたりだけのとっておきのいちにち
ヘレン・ダンモア　文溪堂

からすのおかしやさん
かこ　さとし　偕成社

ことわざ絵本
五味　太郎　岩崎書店

ふしぎな深海魚図鑑
北村　雄一　汐文社

美術館にもぐりこめ！
さがら　あつこ　福音館書店

ゴリラでたまご
内田　麟太郎　WAVE 出版

その他８６冊

郷土関係

南島の畑作文化
賀納　章雄　海風社

夜明けの晩に
堀　晃　瞬報社写真印刷株式会社

その他２３冊

一　般

散歩で見かける四季の花
金田　一　日本文芸社

がまんしなくていい
鎌田　實　集英社

味な映画の散歩道
池波　正太郎　河出書房新社

その他１９６冊

小　説・随　筆

リボン
小川　糸　ポプラ社

天翔る
村山　由佳　講談社

つくもがみ，遊ぼうよ
畠中　恵　角川書店

夢幻花
東野　圭吾　ＰＨＰ研究所

その他１６冊

進学・ビジネス支援

電話応対＆敬語・話し方のビジネスマナー
尾形　圭子　監修　西東社

その他1冊

おすすめの本

神去なあなあ夜話
三浦　しをん　徳間書店

直木賞作家であり，昨年『舟を編む』で本屋大賞を受賞した三浦しをんさんの本です。「なあなあ」とは，「のんびり行こう，ゆっくり行こう」という意味です。そんな「なあなあ」の精神で，山とともに生きる神去村という林業の村に，生まれも育ちも横浜という青年がやってきました。主人公の青年が，「どこにも繋がっていないパソコン」の中に書きこんだ日記という形式をとりながら，林業で生きる村の人々の生活を描く小説となっています。

奄美八月踊り唄の宇宙
清　眞人／富島　甫　海風社

「八月踊り」とは旧暦八月の七日間にわたる豊年祭の夜の踊りを指しますが，この祭りそのものを指す言葉でもあります。奄美方言での歌詞と現代標準語訳が対訳の形で並記されており，誰もが奄美八月踊り唄の世界を知ることができるようになっています。
「奄美の八月踊り唄」の男女の掛合い唄こそが，コミュニケーションの原点であることに気づかされ，今日の私たちが失いかけている《生命感の回復》と《共感的絆の回復》について考えてみたくなる一冊です。